

都小 研小 会報

・発行所
東京都小学校社会科研究会
東京都板橋区大谷口上町 43-1
・発行人 石橋昌雄
・編集人 山田裕

東京大会の成功を期す

東京大会実行委員長
新宿区立鶴巻小学校長

國分重隆



オリンピック、パラリンピック開催地に東京が選ばれた記念すべき年に、東京大会が行われます。十年前は、江戸開府四百年。今回も参加者の心に残るシチュエーションがあり、天も応援してくれているかのようです。

夏季研修会では、会場ごとに運営委員の方々と打ち合わせもでき、いよいよ全都を挙げての体制が整ってきました。頂上は見えてきました。あとは東京の社会科のグレードの高さをいかに全国に示すかです。大会に向けては、個々にかかわる

立場も負う責任も違います。でも、大会当日までの全ての取り組みが、東京の社会科を愛する仲間の資質を高め、東京の社会科そのものの質を高める、そのような思いで全都で盛り上げていただきたく、心からお願いする次第です。そして、この大会を乗り越えた経験が我々の結束力をさらに強め、次の十年に向けた社会科研究の原動力となることを強く願っています。

我々の研究は、質も内容も他県に類を見ないハイレベルなものです。なぜなら我々の研究は、十年前の東京大会が終わった時点から常に教育界の動きをにらみつつ、新しい時代の公民的資質の基礎の育成を目指し積み上げられてきたからです。特に五年前からは、今大会に照準を合

わせ、理論の基盤も整えてきました。その間多くの先輩役員の方々、研究推進委員の方々が思いを注ぎそれを繋いで、東京の社会科教育の充実、そして都小社研の発展を願いながら、研究を積み上げてきたのです。だからこそ、質も内容も違うのです。

文科省の澤井先生も、我々の研究を「理解」と「人間形成」のバランスを大切にされるこれらの社会科の進む道を示す先進的な研究として絶賛してくださいました。大会当日には、大いに自信をもって、実績を堂々とアピールしましょう。

さらに、運営にかかわる皆様には、招くという点で配慮すべきことが多々あると思います。それぞれの長を中心にチームワークを大切にしながら、当日の運営の面でも東京の素晴らしさを印象付けてほしいと思います。

うまくいかなかったときは全て私が責任を負います。でも、皆さんなら、これまでの積み上げを会場の授業と各提案で十分に示すことができ、大会は必ず成功すると確信しています。

「東京の社会科は、十年前も、今も、そして十年後も日本一」
実力を見せてやりましょう。

「おもてなしの心で」 (東京大会を前に)

都小社研副会長・東京大会事務局長
江戸川区立清新第三小学校長

佐藤繁則

十年に一度の東京大会が目前に迫りました。これまで、研究ばかりでなく運営面を含めて本当に多くの先生方が大会成功に向けて力を尽くしていただいたことに心より感謝申し上げます。

全国大会は、回を重ねて今回が第五十一回大会となります。研究主題の変遷を見ると、第一回大会(昭和三十八年)は「社会科学習における資料の活用」でした。それから五十年の歩みを続ける中で、研究内容も教材・資料論から学び論へ、そして資質・能力育成論へと進展してきました。まさに社会科学研究の歴史・変遷を物語っているようです。

今回の大会では、学習指導要領改訂の目玉ともいえる公民的資質「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育」に真正面から取り組み、理論と実践の整合性を図りました。そして、練り上げた大会主題を受け、五つの会場ご

とに地域や学校の特色を十分に活かした研究・実践を積み重ね、その成果を発表する運びとなりました。

大会一日目の全体会はもちろんのこと、二日目は、各会場ごとに子供たちの生き生きと学ぶ姿が展開されるとともに、研究に携わった先生方が自信に満ちた表情で会場校提案、授業提案・課題提案を行っていただくことを期待しています。

過日、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピック開催都市が東京に決まるというビッグニュースが列島を駆け巡りました。「おもてなしの心で東京は皆様をお待ちしています」という招致スピーチが絶賛されました。

大会当日は、研究に携わる者、運営に携わる者の総力を結集し、都小社研会員共通の合い言葉として「おもてなしの心」を掲げ、大会が大成功のうちに終わることを祈っています。

特集

東京大会プレ発表会から

第一会場

板橋区立板橋第十小学校

本校は昨年度二月二十二日、

東京都小学校社会科研究会の発表と併せて東京大会のプレ発表会を実施しました。大会主題を受け、本校では「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育」共に考え、表現しながら社会認識を深める授業の創造」を主題とし、研究授業をさせて頂きました。

各学年部会では活発な事前検討会が何度も行われ、入念な準備のもとプレ発表会を迎えることができました。

当日の発表では國學院大学教授安野功先生から、東京大会へ向け主に次の二点の御指導を頂きました。

まず一つ目が日々の授業を通して「本当はどうなんだろう」という社会を見る目を子供たちに育んでいくことの重要性です。社会認識を深めるためには「問う力」の育成が欠かせません。そのため、「何を理解させ、何を考えさせるのか」を明確にし

た授業作りが大切であることを教えていただきました。

二つ目は、子供たちに様々な立場で考えさせていくことの大切さです。自分だけでなく、「みんなにとってよりよい社会とは？」を考えることが社会参画の基礎につながります。そのためには、友だちや家族、地域の方々と共に考え合い、それらをもとに最後は再び自分なりの考えを探っていくことが大切であることを教えて頂きました。

本校では安野先生の御指導のもとに、教材開発、学習過程、指導法、評価等様々な工夫をして子供たちの社会認識を深め、よりよい社会に向けての参画意識の基礎を培う授業実践を進めております。

最後となりましたが、東京大会に向けて多くの皆様にご支援、ご協力頂いていることに深くお礼申し上げます。ぜひ東京大会では、本校の授業を参観していただき、忌憚のないご意見を頂いたり、協議したりできれば幸いです。

第二会場

江東区立明治小学校

平成二十五年六月二十八日、

明治小会場のプレ発表会が行われました。三年生から六年生までの四学年が一学級ずつ授業を公開しました。大会主題を受けた会場校副主題『思考力・判断力・表現力』を育てる社会科授業の創造のもと「児童が自分の考えをもち表現する」「問題解決的な学習活動を展開する」授業を目指し学習活動に取り組みました。

三年生は小単元「わたしたちのまち みんなのまち 江東区の様子」の「つかむ」段階の授業実践を行いました。学習課題を「江東区にはどのようなところがあるのか。」とし、江東区地図を見て、区内の様々な場所の様子を児童の気づきを出しながら考えていきました。

四年生は小単元「くらしを支える水」の「まとめる」段階の授業実践を行いました。学習課題を「学習問題についてまとめ、自分たちのくらしとのかかわりについて考えよう。」とし、水の旅の図をもとにグループでわかったことを発表し合い、さらに水道事業と自分たちのくらしのか

かわりについて学級全体で話し合い考えをまとめました。

五年生は小単元「米づくりのさかんな庄内平野」の「ふかめる」段階の授業実践を行いました。学習課題を「よりよい米づくりについて、自分の考えをもち話し合おう。」とし、それまでに学んできたことを生かし、より安心安全でおいしく、たくさんの人々に食べてもらえる米づくりはどのように改善していったらよいのかたくさん意見を出し合いながら考えを深めました。

六年生は小単元「戦国の世から江戸の世へ」の「ふかめる」段階の授業実践を行いました。学習課題を「秀吉が全国統一したときの気持ちを考えよう。」とし、これまでに学んだ知識をもとに児童が秀吉の気持ちになりきりその思いを表現することから、信長と秀吉の業績の意味や価値を考えていきました。

学年別授業提案では、授業について多くの先生方から意見をいただき、協議が行われました。さらに全体協議会では講師の北先生から御指導をいただき、東京大会に向けて私達が目指す社会科を確認する機会となりました。

第三会場

新宿区立四谷小学校

全国大会に向けて

一、プレ発表を終えて

本校は、去る七月五日、プレ発表会を開催しました。全体の運営、会場設営、環境、授業に至るまで可能な限り、スタンダードを意識して準備をいたしました。当日は石橋会長はじめ、国分実行委員長、都小社研大会事務局、調査研究部、新宿区教育研究会社会科部、等々多くの皆様のご指導、ご支援によって盛会裏に終了しました。心から感謝いたします。皆様の熱い思いに応えられるよう努めねば、と職員一同心も新たに誓ったところです。

このプレ発表では本大会を見据え、敢えて全学年、全学級での公開授業を行う方法を取りました。その総括と反省から大会に向けて細かい修正点や課題も明確になってまいりました。

二、現状の取り組み

残り一カ月になりました。指導案の検討が順調に進み、紀要の作成も予定通りに進捗しています。本校主題「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育」く子供

が自らICTを活用し、社会認識を深める授業の創造の原点を常に追い求めてまいります。

◆参画意識を培う教材開発については地域協働学校のメリットを最大限に生かし、四谷の特色ある地域教材を徹底して研究し、多くの地域人材に授業に参画していただいています。

発問、ノート指導、評価の工夫にもさらに磨きをかけていきます。

◆ICTの活用自体は特別なものではありません。ICTは主役ではなく、情報を収集し思考・判断・表現するためのツールに過ぎません。「子供が自ら活用すること」即ちICTを生かし、人や社会と関わり協働的に学ぶことが重要です。活用の重点化を一層図っています。

三、時空を超えた学びを

協働的で双方向性のある学びを実現する問題解決学習を通じて社会認識を深めさせ、よりよい社会の形成に参画しようとする意識を培う新しい時代の社会科授業を全国に向け発信いたします。生き生きと学ぶ姿をご覧いただけたら幸甚です。

第四会場

台東区立根岸小学校

六月二十一日(金)に行われた本校のプレ発表会には、三百名を超える多くの先生方の参加があり、熱気にあふれた研究発表会となりました。

特に、全学級(十八学級)が生活科と社会科の公開研究授業を行いました。どの教室も多くの参観者であふれるほどでした。また、学年別授業分科会でも、百名を超える分科会もあるなど、多くの先生方の参加により、充実した分科会協議ができました。さらに、全体会では、本校の研究発表のあと、講師の千葉昇先生から適切な助言をいただき、教職員一同、大いにやる気を高めたところです。

このように充実したプレ研究発表会が開催できましたのも、石橋会長をはじめ多くの先生方のお陰と感謝いたしております。ありがとうございました。

ところで、本校では、大会主題「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育」を目指し、意欲的に調べ・考え・表現しながら問題解決的な社会科学学習の中で深めた社会認識を基に、新たな問題

に対する解決策や行動案などを検討しながら、自らの判断に基づき主体的に意思決定する力を育てたいと考えております。特に、新たに設定された「ふかめる」段階を重視し、自らの主体的判断に基づく意思決定力を育てる社会科授業の開発・創造に取り組んでおります。そして、研究の視点として、①「ふかめる」段階における問い直しの内容や方法の工夫 ②自分のこととして捉えながら社会認識を深め、よりよい社会の在り方や関わり方が考えられる教材の開発 ③確かな社会認識に基づく思考力や判断力、表現力が高まる指導法の工夫 ④児童の思考・判断の変容を捉え指導に生かす評価表の工夫を掲げています。

第五会場

中央区立日本橋小学校

六月二十八日に大会主題を受けて、本校ではよりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育、く考えを深め、地域・国土への誇りを育む社会科授業の創造という会場主題のもと、今までの研究の取り組みについて提案するプレ発表会の機会をいただきました。今回のプレ発表会では本校の研究で重点に置いている、日本橋地域に関連する素材(文化、歴史、人材など)を生かした教材の開発や、子供の思考の深まりを重視した問題解決的な学習が、子供の発達段階に応じた社会的事象に対する見方や考え、地域・国土に対する愛着や誇りを育てていくことに有効であるかを提案しました。

に思う気持ちにつながるものとなりました。課題としては自分の考えに自信をもったり、より考えを深めたりするためには、発問や板書の工夫、情報交換や発表形態の工夫を進めていくなど今後研究を進める上で貴重な意見をいただきました。

その後の指導講評では、会場校講師である早稲田大学教授、小林宏己先生より十一月の本発表に向けて本校の研究内容(教材開発と社会認識を深める指導の工夫)と関連させながら、「教材や地域との出会いがある授業」「学び合う仲間との出会いのある授業」「学びを深める自分との出会いのある授業」の三つの出会いを大切にする授業づくりについてご指導をいただきました。特に課題としてあがった子供が自分の考えに自信をもったり、より考えを深めたりすることができる授業改善の視点についても明確に示していただきました。

この機会に皆様からいただきました多数のご意見やご指導をもとに、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育を目指して取り組んでまいります。

公開授業後の研究協議会では提案授業について活発な意見交換がなされました。大きな成果として地域のスパーマーケットと商店街、ごみ収集の様子、江戸図屏風や江戸名所記など、日本橋地域に関連する素材を生かした教材の開発は、子供の学習への関心や追究意欲を高めるとともに、地域への愛着や誇り

